

ジョンソングラスに想う

昨年、機会があってアルゼンチンを訪れた。その目的は、アルゼンチンの畑作を見聞し、除草剤との関係を現地で考えてみるためであった。アルゼンチンの畑作で重要な地域は、パンパウメダという地域であって、年降水量が 800 mm の地域で、その畑作面積は 1,450 万 ha という。この畑作地帯に、小麦・とうもろこし・ソルガム・ヒマワリ・大豆・牧草等の大部分が作られている。いうなれば、この地域の農業生産が、アルゼンチン農業を背負っているわけである。この地域の雑草には種々あるが、とりわけ問題視されているのが、ジョンソングラス（セイバンモロコシ）である。車に乗って、あちこちの畑道を廻ってみて驚いたのは、とうもろこし・大豆・ソルガム・ヒマワリ等の畑の中に、赤っぽい穂をつけたジョンソングラスが風にそよいでいるのである。この地域で、ジョンソングラスの害をうけている畑面積は 650 万 ha で、そのうち 250 万 ha が大問題となっている。ジョンソングラスによる作物の減収率は、作物によって異なるが、平均して 50～60% で、如何にその被害が大きいかに驚く。この雑草の繁殖は、大部分地下茎による。一本の地下茎が数 m も伸びて、その節々から新しい茎が出てくる。耕耘すれば、人為的に栄養繁殖を助けるだけである。これを退治する最も合理的な方法は、除草剤を茎葉処理し、これを地下茎に移行させて枯殺することである。この場合、夏作物の中で、茎葉処理して選択的にジョンソングラスを枯殺する薬剤が欲しいものである。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 浦野啓司〕
石原産業株式会社営業第二本部開発部長

目次 (第 12 巻第 6 号)

水生雑草の分布と発生実態…………… 2

＜京都大学農学部教授 植木邦和＞

1. はじめに…………… 2
2. 水生植物とその特徴…………… 2
3. 水生雑草の発生環境と実態…………… 4
4. 我が国における最近話題の水
生雑草…………… 6
5. おわりに…………… 10

水田裏作麦と雑草防除…………… 11

＜岡山県農業試験場 岡武三郎＞

1. 水田裏作麦の推移…………… 11
2. 雑草防除法の変遷…………… 11
3. 水田裏作麦における雑草防除…………… 12
4. 期待される新しい除草剤…………… 16
5. 麦作雑草の今後…………… 16

野菜の品質と栽培条件…………… 17

＜野菜試験場 速水昭彦＞

1. 結球野菜の貯蔵性…………… 18
2. 結球野菜の輸送性…………… 19
3. 野菜の食品成分…………… 22
4. 野菜の品質に影響する因子と
変動幅…………… 52
5. 今後の問題点…………… 26

外国文献抄録…………… 26

＜抄録者；天辰克己＞

植調協会だより…………… 28